

【目標】 圃地化率：80%以上 収量：200kg/10a 品質：1～3等比率と大粒比率の向上 「とやまGAP」の実施及び生産記録簿記帳100%

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月
旬別			下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	

播種 | **出芽・苗立** | **生育期** | **開花期** | **着莢始め** | **莢伸長期** | **子実肥大期** | **黄葉期** | **落葉・成熟期**

主な作業
 基幹排水 | H2O | 施肥・整地 | 除草剤散布 | 培土 | 1回目培土 | 2回目培土 | 防除(随時) | ウコンノメイガ | 基本防除(1回目) | 基本防除(2回目) | 雑草の抜き取り | 収穫 | 次年度作付圃場の準備

栽培のポイント
 ①排水対策を徹底
 ★②石灰質資材や基肥の適量施用
 ★③種子消毒の実施
 ★④適正な播種作業で苗立本数を確保
 ★⑤雑草防除(除草剤散布)
 ⑥晴れ間を逃さず2回培土の実施
 ★⑦開花期～9月上旬は早めの畦間かん水
 ★⑧病虫害防除の徹底
 ⑨圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始

1回目培土：播種20～25日後(本葉2～3葉期)
 2回目培土：播種30～35日後(本葉4～5葉期)

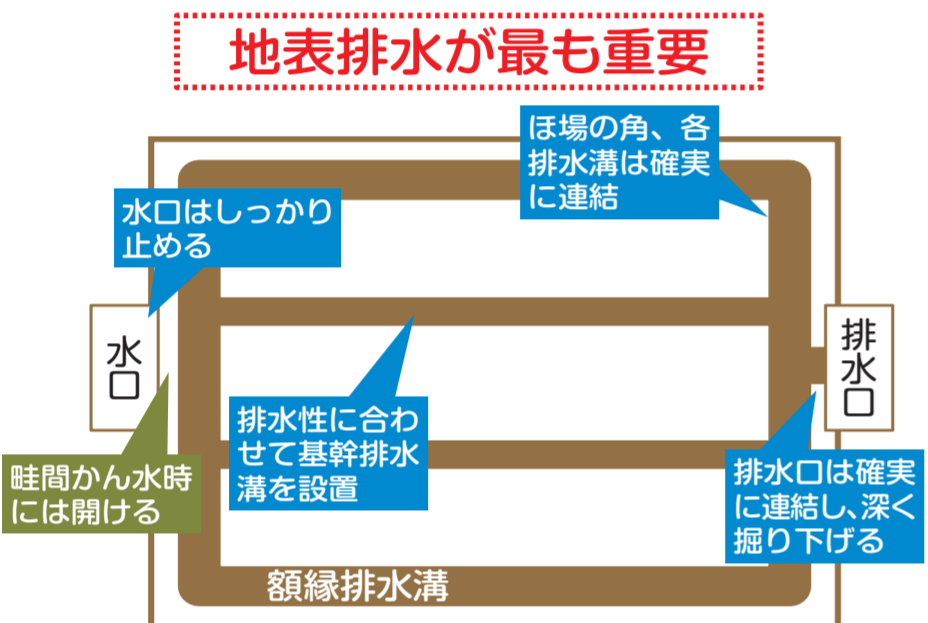
畦間かん水：開花期以降晴天が続いたら実施

雑草の抜き取り：タネ類等大きな雑草や青立ち株を除去

収穫：適期収穫で、しわ粒や汚損粒にしない。圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

次年度作付圃場の準備

① 早期排水対策



排水対策の効果

- ・ 砕土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- ・ 除草剤の効果が向上
- ・ 根量が増え、根粒菌も増える
- ・ 病害(茎疫病、黒根腐病)の発生抑制

② 土づくりと施肥

- ★地力の高いほ場では過剰な施肥を避ける。
- 大豆栽培に適するpH6.0～6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

資材名等	施肥量
貝化石(粒)	150～200kg
発酵ケイフン	100～200kg
BB基肥084	20kg
(N:P:K = 10:18:24)	
普通田	20kg
砂壤土、低地力田	30kg
麦跡	上記 + 硫安10kg

③ 種子消毒(病虫害防除の徹底)

対象病虫害	使用薬剤	処理方法
フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クルーザーMAXX	塗沫処理 乾燥種子 1kg当たり 原液8mL

④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

- ★極端に早い播種を避ける。
- 一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。
- ※作業手順(施肥同時播種の場合)
耕起 ▶ 砕土・整地 ▶ 播種 ▶ 作溝

●適正栽植本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる。

播種直後に基幹排水溝と額縁排水溝をつなぎ、排水を促進!

★苗立数を確保する。
【播種量の目安】条間80cm「エンレイ」大粒種子(百粒重35.2gの場合)

目皿	播種時期	播種量目安(kg/10a)	目標栽植本数(本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-2	5月6半旬～6月上旬	5.5～6.3	14,000～16,000	10～11	13
	6月中旬～(麦跡等)	6.3～7.0	16,000～18,000	9～10	14
B-22	6月上旬	5.5～6.3	14,000～16,000	14	9～10
	6月中旬	6.3～7.0	16,000～18,000	13	10

※B-22使用の場合は、圃場条件により播種量が増加します。 ※播種精度95%苗立数90%の場合

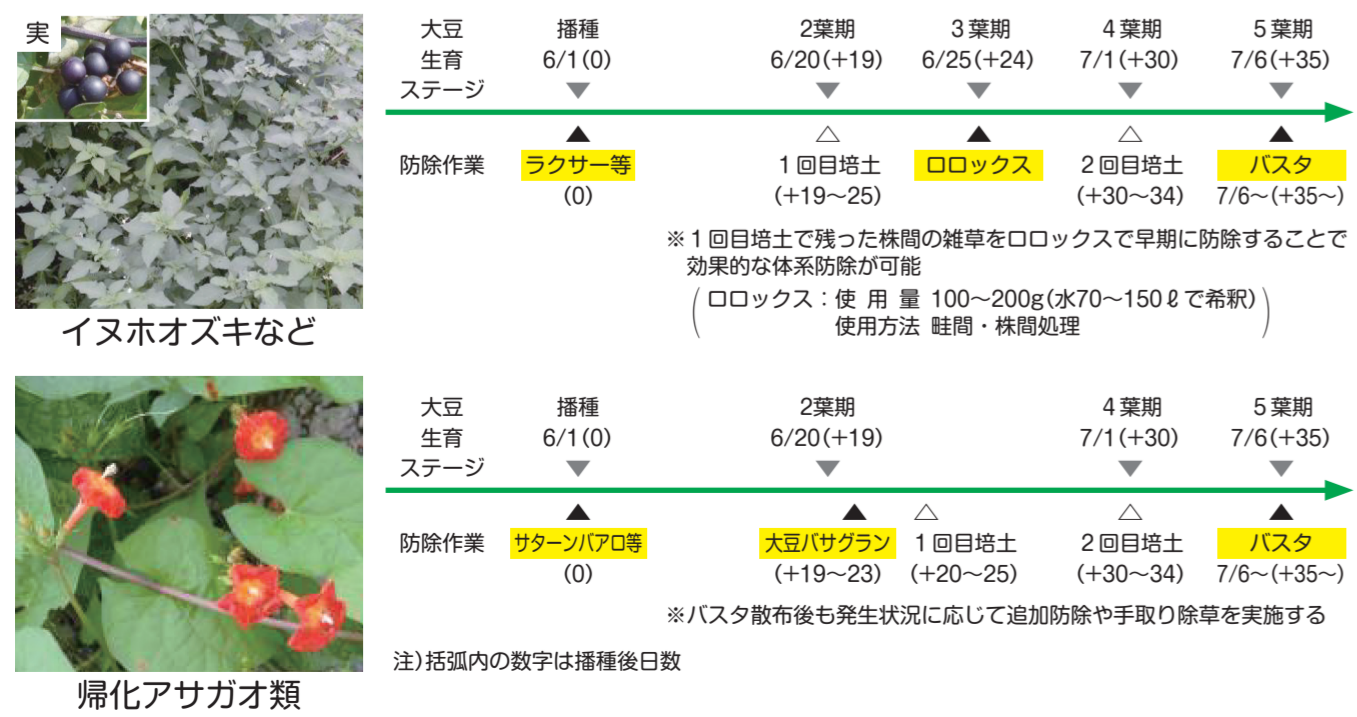
⑤ 雑草防除(除草剤散布)

農業使用基準を守りましょう。

散布時期	対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量
播種後出芽前(雑草発生前)	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4～6kg
		サターンバアロ乳剤	600～1,000mL(水70～100Lで希釈)
	一年生雑草(ツククサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4～6kg
		トレファノサイド乳剤	200～300mL(水100Lで希釈)
一年生雑草	ラクサー乳剤	400～800mL(水100Lで希釈)	
	プロールプラス乳剤	400～600mL(水70～150Lで希釈)	
雑草生育期(イネ科雑草の3～10葉期)(収穫30日前まで)	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200～300mL(水100Lで希釈)
大豆2葉期～開花前(収穫45日前まで)	一年生雑草(イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100～150mL(水100Lで希釈)
本葉3葉期以降(雑草生育期(草丈15cm以下)雑草茎葉葉土壌散布(畦間・株間処理)(収穫30日前まで)	一年生雑草	ロロックス	100～200g(水70～150Lで希釈)
大豆5葉期以降(雑草生育期(畦間・株間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300～500mL(水100～150Lで希釈)
雑草生育期(畦間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	ザクサ液剤	300～500mL(水100～150Lで希釈)

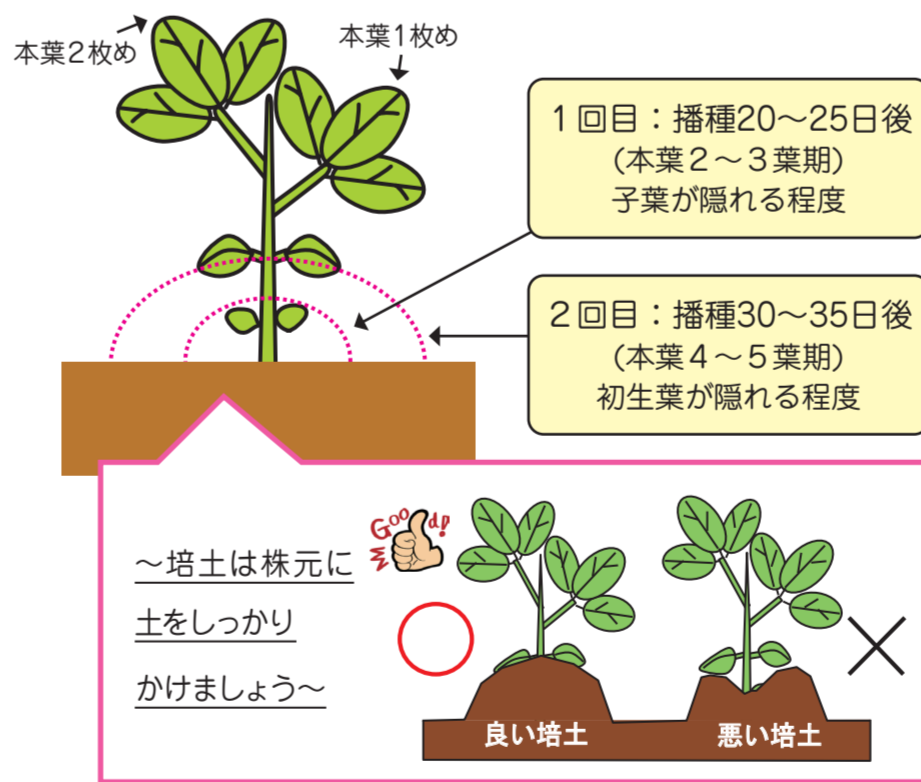
※ロロックス、バスタ液剤、ザクサ液剤は、大豆にかからないように注意して下さい。

帰化雑草の防除体系



⑥ 的確な培土

- 晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。
- 培土後は溝の手直しを行い、排水口へ連結する。



⑧ 病虫害防除

農業使用基準を守りましょう。

- ★有効薬剤を適期に適正量を確実に散布する。

防除時期	対象病虫害	薬剤名	10a当たり散布量
基本防除	8月上旬	紫斑病、茎疫病	Zボルドー粉剤DL 3kg
		カメムシ類	スミチオン粉剤3DL 4kg
基本防除	8月下旬	紫斑病	トライトレボン粉剤DL 3～4kg
		カメムシ類	アミスタートレボンSE 150mL(水150Lで希釈)
基本防除	8月上旬	紫斑病	トライトレボン粉剤DL 150mL(水150Lで希釈)
		カメムシ類	ダントツ粉剤DL 60mL(水150Lで希釈)
基本防除	8月下旬	紫斑病	アミスタートレボンSE 150mL(水150Lで希釈)
		カメムシ類	ダントツ粉剤DL 4kg
随時防除	7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ	フレバソフアブル5 ¹⁾ 38mL(水150Lで希釈)
	8月中旬～9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL 4kg トレボン乳剤 150mL(水150Lで希釈)
	9月上旬～9月中旬	カメムシ類	ダントツ粉剤DL 4kg

1) フレバソフアブル5を使用される場合は展着剤を加用して下さい。

⑦ 畦間かん水(開花期～9月上旬)

- ★早めの畦間かん水により干ばつを回避する。
- 開花期から9月上旬、3日間以上晴天が続いた場合、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- 圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。



⑨ 収穫作業

刈取り適期の目安



⑩ 次年度大豆作付圃場の準備

- 額縁排水溝の設置や心土破碎を行う。
- 緑肥作物の作付により地力増進を図る。
- 連作を避け、圃地化を進める。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農経済センターへ提出して下さい。